

# 新潟漫画文化

## 二次元をより身近に

発行元

新潟青陵大  
現代社会  
メディア  
編集：M

### マンガ・アニメの祭典再開 コロナ収束見据え

昨年十一月十九・二十日の二日間、新潟市古町エリアにてマンガ・アニメの祭典「がたふえすV.O.I. 13」が開催され、大いに賑わいをみせた。スマホゲームの対戦交流会をはじめ、小中学校向けのマンガ講座

や、新潟出身の声優によるトークショー、アニメのフレコ体験のほか、XRコンテンツ体験や話題となったゲームの展示体験スペースなどがあり、訪れた人々が、二次元コンテンツの世界を肌で体験できる機会と

なった。ここ4年ほど、台風や新型コロナウイルスの影響により、がたふえすは一日のみの開催や全面中止といった対応を迫られてきた。今回は古町エリアでの開催であったが、今後新型コロナウイルスが収まるなどし

てくれば、かつて行われていたように、万代・白山エリアでのイベントも開催され、「マンガ・アニメ一色に染まる二日間」の光景が再びみられるだろう。

十九日にも、普段中々みられない賑わいがあった。古町広場ではスマホゲーム「#コンパス」のイベントが行われており、ゲストを招いてユーザー同士やゲストとの対戦や交流が行われ、大きな盛り上がりが見

られた。また、古町通りでは「シン・エヴァンゲリオ」劇場版で総監督を務めた庵野秀明氏がこれまで手



新潟県には有名な作品を手掛けた漫画家が多いことは有名である。例えば、現在ノイタミナでアニメが放送中の「うる星やつら」、放送予定の「るろうに剣心」の作者が、どちらも新潟県出身であることはよく

知られている。現在、アニメにおいてはキャラクターに声を吹き込む声優の存在は欠かせないものであるが、この新潟にも、有名な作品のメイン級キャラクターを務める声優が多く存在する。その一例として、矢

島晶子（野原しんのすけ：クレヨンしんちゃん）、阪口大助（志村新八：銀魂）、平川大輔（伊藤誠：School Day）

、広橋涼（藤林杏：CLANNAD）（敬称略）が挙げられる。彼らはその

他にも多数の作品に出演しており、我々が何となく見ているアニメやプレイしているゲームでも、その名前を見ることができよう。声の出演を確認して、自分と同じ出身の声優を探して楽しむというのも、マンガ・アニメ文化の楽しみ方の一つといえる。声の出演はエンディングにあることが殆どなので、ぜひ確かめていただきたい。

### 声の役者に注目を 新潟出身の声優たち

### マンガの家中心に展開



新潟はマンガ・アニメの聖地となるためにどのような取組を行っているのか。新潟市文化政策課に聞いた。

文化政策課の担当者は具体的な取組として、「マンガ・アニメに身近に触れる機会を提供するために新潟市マンガ・アニメ情報館・新潟市マンガの家を整備しました。新潟ゆかりの作家の作品や話題作の展示のほか体験コーナーやマンガ制作体験も行っており、両施設とも一般社団法人アニメツーリズム協会より「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」に選定されてもいます。また、がたふえすでは

できるコーナーが設けられており、親子や友達同士で楽しむ姿も見受けられた。『にいがたマンガ大賞』や、プロデビュアのきっかけづくりとしてのマンガ家志望者支援事業で次世代のクリエイターの育成を行っています。と話した。

また、「これまでの取り組みにより、首都圏にあるマンガ・アニメ等のコンテンツ企業が本市に進出する動きが出ています。引き続き本市の取り組みを発信し、教育機関や関連企業と連携することで、クリエイターの育成に加え育成してきたクリエイターが産業と結びつき、本市で活躍できる環境を整えるべく事業展開をしていきます。『マンガ・アニメのまちにいがた』が都市イメージとして確立するよう本気で考えています。」と語った。